

佳作

方舟忌

とうてつ

目を閉じたままでも

舟の上でグラスに水を注げるように

あなたにはやさしい私でありたかった

一日目

約束通り

新しい部屋で目が覚めたとき

あなたのお母さんの台所が窓から見えて

その真っすぐな火の中に

あなたがいないことにほっとした

どこへ行っても

今のあなたは私に触れられなくて

冷蔵庫の中身なんて似たような物なのに

私にはなつかなくて

三日目

胸がしよすがなくなつて

三線を弾けるようになった

知らない花の色がとけて流れ込む玄関は

私の物にはならない故郷を説き

口に出せば冷める金時計みたいに季節は

進む

ちゃんとした服を着ていなかったって私

はい（その通りです）

はい（たぶん違うよ）

ふたつのYESを使いわけて

息をする

息を吐く

水面みたいに安全に

例えば、の

花の美しさは沈まずに過ぎて
それでも私の奥、心臓の指す方角は
ざぶざぶと潮の香を放つ

七日目

自律する

方舟

そのなかに

私は私を匿っている